第62回年会 宮城 *Program*

日本民俗学会

2010年10月2日(土)・3日(日)

東北大学川内北キャンパス

■ 第62回年会日程 1

■ アクセス・会場周辺図・構内図・研究発表会場 2

■ 年会参加者の皆さまへ 5

■ 一般発表の皆さまへ 6

■ グループ発表の皆さまへ 7

■ 座長の皆さまへ 7

■ 交流コーナーについて 7

■ タイムテーブル 8

■ 各会場進行表 10

第62回年会日程

10/2

9:30 ～ 10:00	理事会	マルチメディア教育研究棟 6F 大ホール
10:00 ～ 12:30	評議員会	マルチメディア教育研究棟 6F 大ホール
12:00 ～	受付開始	マルチメディア教育研究棟 1F エントランスホール
13:00 ～ 16:30	公開シンポジウム	マルチメディア教育研究棟 2F マルチメディアホール

「生老病死にみる民俗の変化」

本年の年会は「変化」を全体に通底するテーマとして採用し、可能なところで「変化」を意識した発表をお願いしてきた。シンポジウムにおいては、「変化」の事例として人生における生老病死の各場面を取り上げ、それぞれの場面におけるこの間の「変化」について、民俗学の周辺研究領域の研究者にお話しいただく。それらの発表に対して民俗学の立場からコメントを付け、フロアからの意見も取り入れるところから、民俗の「変化」をめぐる民俗学的立ち位置を考えることとしたい。

スピーカー

生 ■	島薗 進	東京大学教授：宗教学
老 ■	宮本 みち子	放送大学教授：家族社会学
病 ■	波平 恵美子	お茶の水女子大学名誉教授：医療人類学
死 ■	森 謙二	茨城キリスト教大学教授：法社会学

コメンテーター	新谷 尚紀	國學院大學教授：民俗学
	小池 淳一	国立歴史民俗博物館准教授：民俗学
コーディネーター	鈴木 岩弓	東北大学教授：宗教民俗学
司　会	小谷 竜介	宮城県教育委員会：文化人類学

16:30 ～ 17:50	研究奨励賞授賞式 会員総会	マルチメディア教育研究棟 2F マルチメディアホール
18:15 ～ 20:15	懇親会	川内の杜ダイニング

10/3

9:00 ～	受付開始	講義棟 B 棟 1F
9:30 ～ 12:00	研究発表（午前）	講義棟 B 棟・C 棟
13:00 ～ 16:00	研究発表（午後）	講義棟 B 棟・C 棟

アクセス・会場周辺図・構内図・研究発表会場

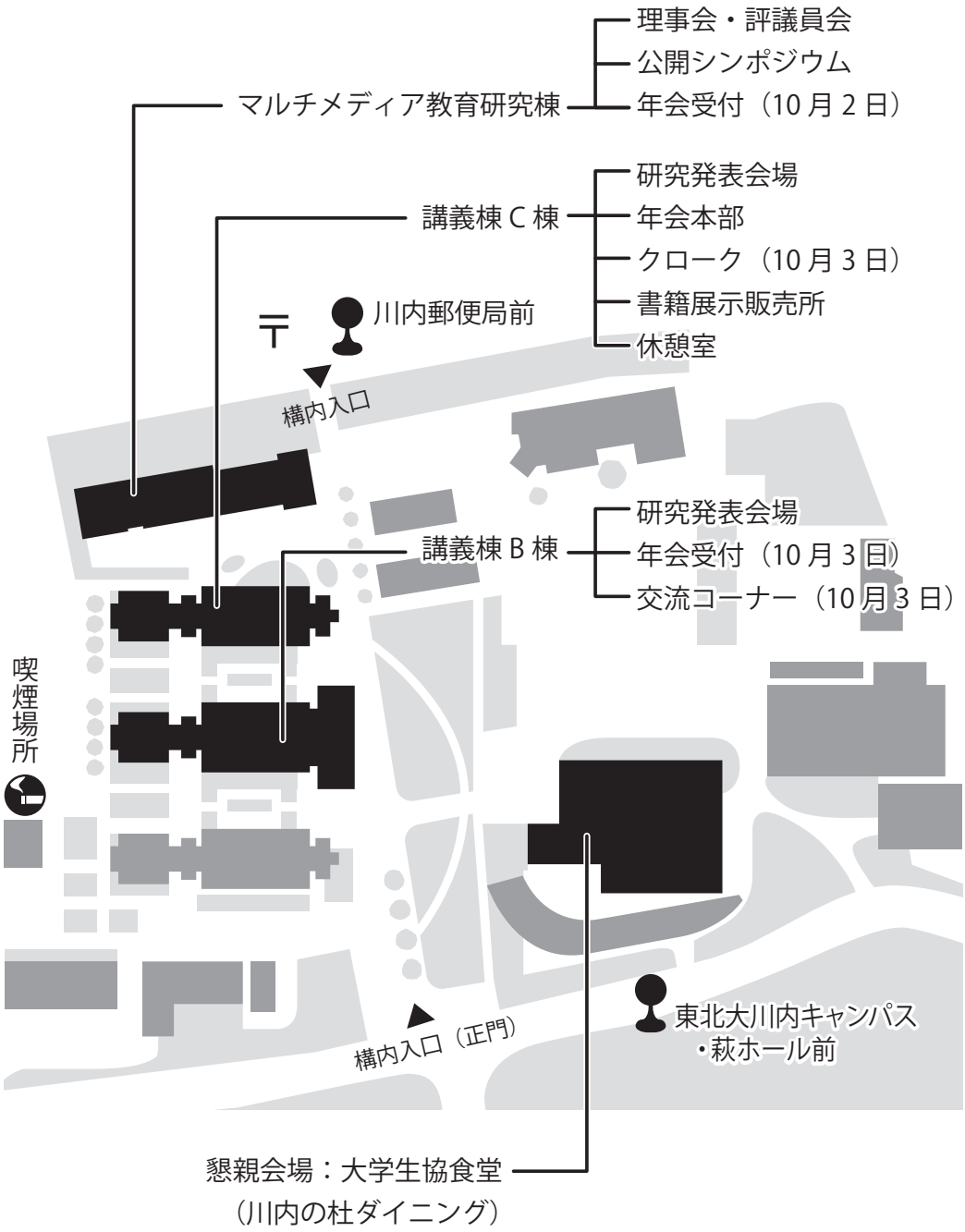
■ アクセス

仙台駅西口　仙台市バス「仙台駅前」バス停より（約 15 分、180 円）

のりば	行き先	下車停留所
9 番	710　青葉通・工学部経由　宮教大・青葉台行 713　青葉通・工学部経由　宮教大・成田山行 715　青葉通・工学部経由　宮教大行 719　青葉通・理・工学部・仙台城跡南経由 動物公園循環	東北大川内キャンパス・萩ホール前
	720　青葉通・博物館・国際センター経由　交通公園・川内営業所行	川内郵便局前
16 番	730　広瀬通・二高県美術館経由　交通公園・川内営業所行 739　広瀬通・二高県美術館・交通公園経由　交通公園循環	

■ 会場周辺図

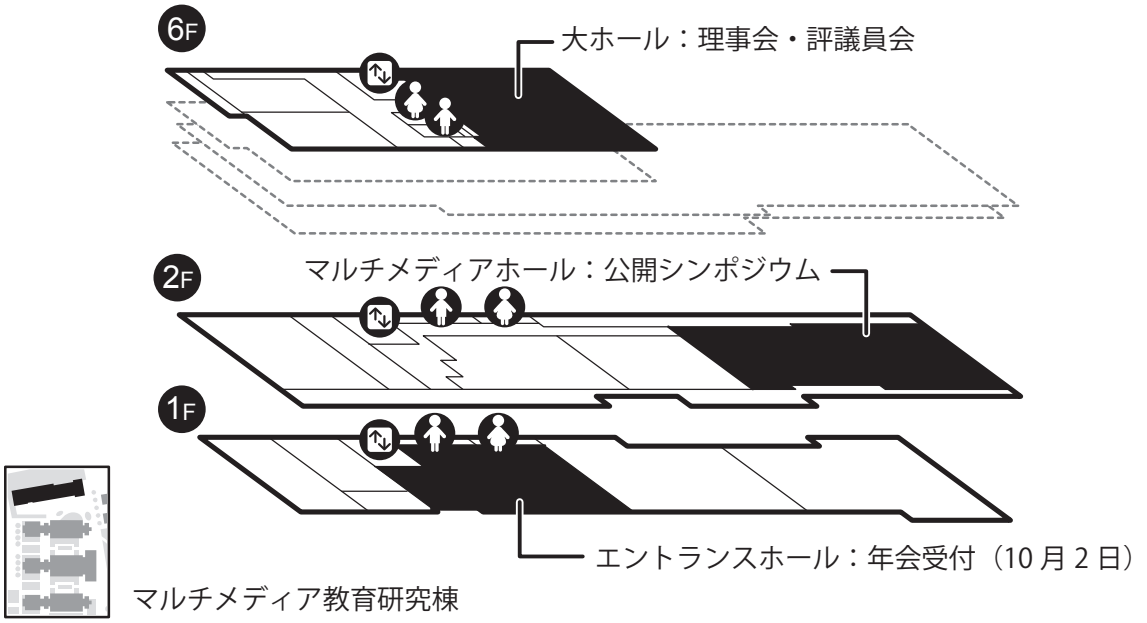
■ 構内図

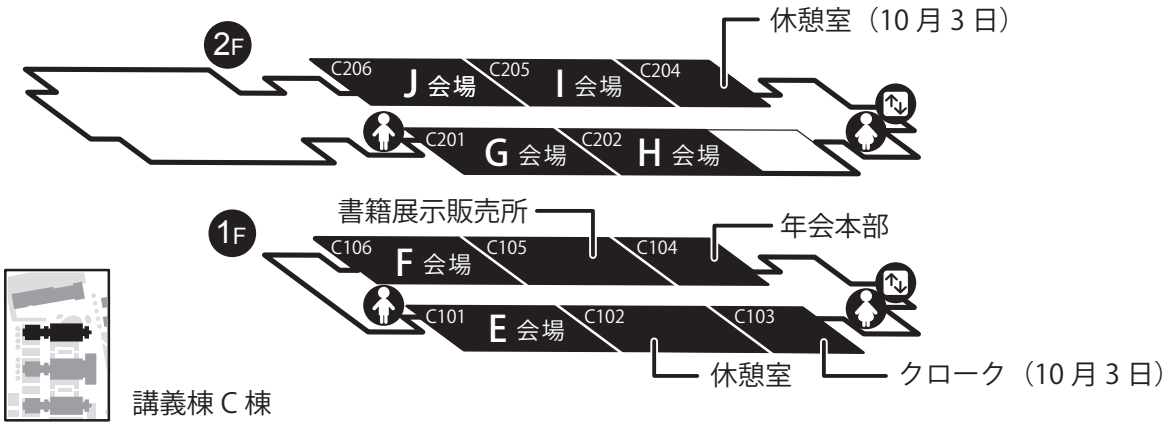


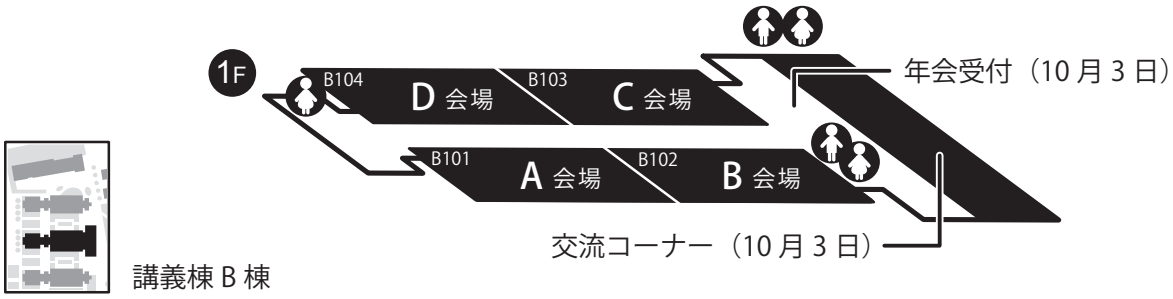
構内停電について

10 月 3 日（日）は、構内停電のため、講義棟以外の全設備は使用できませんのでご注意ください。また、それに伴い当日は実行委員会事務局の電話・ファックス・Ｅメールも不通となります。緊急の連絡は、年会本部（090-6228-9657）までお願いいたします。

■ 研究発表会場







男性用トイレ　女性用トイレ　エレベーター

年会参加者の皆さまへ

■ **年会受付**
- 受付では参加者名簿を確認し、名札、要旨集などの入った紙袋をお受け取りください。
- 当日に参加申込みをされる方は、「当日申込み受付」にてお申し込みください。当日の参加費用は、年会参加費 5,000 円、懇親会参加費 6,000 円となっております。

■ **名札**
- 会場では常時、名札をお付けください。名札は受付にてお渡しいたします。
- 最後にお帰りの際には、名札をスタッフまたは回収箱へお返しください。

■ **荷物預かり**
- 3 日（日）のみ、講義棟 C 棟 1F（C103）にクロークを設けますのでご利用ください。
- 構内にコインロッカーはございませんのでご了承ください。

■ **お食事**
- 2 日（土）：年会が開催される川内北キャンパスでは、川内の杜ダイニング、Bee Arena Café、キッチンテラス Couleur が営業いたしますのでご利用ください（11:00 ～ 14:30）。
- 3 日（日）：二日目には、食堂・売店等が営業いたしません。キャンパス周辺のコンビニ等をご利用ください。

■ **喫煙場所**
- 喫煙場所については、構内図をご参照ください。キャンパスは指定場所以外は禁煙となっております。何卒ご理解ご協力をお願いいたします。

■ **昼食弁当**
- 事前に 3 日（日）昼食用のお弁当を申し込まれた方には、受付にて引換券をお渡しいたします。弁当は年会受付にて 11 時 45 分から引き換えを開始しますのでご利用ください。
- お弁当の当日申込は受けかねますのでご了承ください。
- お食事の際には、休憩室（C102、C204）および交流コーナーをご利用ください。

■ **懇親会**
- 懇親会は、2 日（土）18 時 15 分より、川内北キャンパス厚生会館・川内の杜ダイニングにて行います。年会受付時にお渡しする入場券を会場までお持ちください。
- 当日、年会会場で参加を申込まれる方は、「当日申込み受付」にてお申込みください。参加費は 6,000 円です。なお、非会員の懇親会への参加はお受けできません。
- 懇親会場にはクロークを設けません。荷物置き場を設けますが、貴重品等の管理は各自の責任において行ってください。盗難・紛失・毀損などについて、実行委員会としては一切責任を負いかねますので、ご了承ください。

■ **書籍展示販売について**
- 2 日（土）、3 日（日）の両日、C105 教室にて書籍展示販売を行います。

■ **その他**
- 発表会場内では、必ず携帯電話の電源をお切りください。
- 会場内でのコピー機のご利用はできません。学外のコンビニ等をご利用ください。
- 会場内で何かご不明な点がございましたら、実行委員の名札をつけたスタッフまでおたずねください。

年会当日の連絡先について

年会当日のご連絡は、年会本部（090-6228-9657）までお願いいたします。特に 3 日（日）は、構内停電のため、ファックス・E メールも不通となり、年会ウェブサイトも閲覧できなくなりますので十分ご注意ください（3 ページもご確認ください）。

一般発表の皆さまへ

■ 発表受付

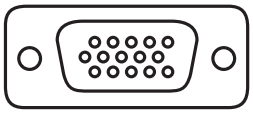
- 発表者は発表の 30 分前までに各会場にて受付をお済ませください。ただし、午前最初の発表者の方は 9 時 15 分まで、午後最初の発表者の方は 12 時 45 分までに受付をお済ませください。
- 発表者は、前の発表が始まるまでに発表会場の「次発表者席」に着席のうえ待機してください。ただし、午前最初の発表者の方は 9 時 20 分より、午後最初の発表者の方は 12 時 50 分より待機してください。

■ 配布資料

- 配布資料がある場合は、あらかじめ 50 部以上をご用意のうえ、発表受付時に会場担当者にお渡しください。
- 各発表会場の座席数は 8 ～ 9 頁のタイムテーブルに記載してありますのでご確認ください。
- 配付資料の事前送付および当日の複写はお受けすることができません。

■ 使用機材

- ＰＣは各自ご持参ください。貸し出しはいたしません。
- 使用できる機材は、ＰＣ用液晶プロジェクタ（D-sub 15pin（VGA）端子使用）・書画カメラ（実物投影機）です。PC 本体は各自でお持ち込みください（LAN の設備はございません）。
- 休憩室（C102、C204）にて事前に接続確認を行ってください。また、午前・午後最初の発表者（グループ）については、各会場にて発表開始までにご確認ください。



D-sub 15pin（VGA）端子

■ 発表時間

- 発表 20 分・質疑応答 5 分とし、以下のようにベルおよびカードで時間をお知らせします。終了時間は厳守くださいますようお願いします。

  17 分経過　ベル 1 回　（発表終了 3 分前）
  20 分経過　ベル 2 回　（発表終了）
  25 分経過　ベル 3 回　（質疑応答終了）

- 終了時間 1 分前（24 分）にイエローカード、終了時間（25 分）にレッドカードが提示されます。レッドカードが提示されたら、すぐに発表・質疑応答を終了してください。
- 発表者や座長の交代、機材の接続、聴講者の移動のため、各発表の間に 5 分の時間を設けております。この時間は発表延長のための時間ではありませんので、ご注意ください。
- なお、次の発表者で機材をご使用の方は、すみやかに準備を行ってください。
- 発表者の責任により開始時間が遅れた場合にも、定刻までに発表・質疑応答を終了していただきます。

■ その他

- 事情によりやむを得ず発表できなくなった場合には、必ず年会本部（090-6228-9657 当日のみ）までお申し出ください。なお、年会当日、実行委員会事務局の電話・ファックス・Ｅメールは不通になりますので、ご注意ください。

グループ発表の皆さまへ

■ **発表受付**

- 各グループ発表の代表者は、メンバーが揃ったことをご確認のうえ、9 時 15 分までに各会場にて受付をお済ませください。

■ **発表時間**

- グループ発表の時間枠は、一律 90 分（9 時 30 分～ 11 時 00 分）となります。進行、質問の受付、時間配分等の運営は、決められた時間内で自由に行ってください。学会側から座長を配置いたしますが、グループ発表の進行・討論等には関与いたしませんので、ご了承ください。終了時間は厳守でお願いいたします。

■ **配布資料・使用機材**

- 取り扱いは、前頁の一般発表と同様です。

座長の皆さまへ

■ **座長受付**

- ご担当の発表が始まる 30 分前までに各会場での受付をお済ませのうえ、発表会場の「次座長席」にご着席ください。ただし、午前最初の座長の方は 9 時 20 分より、午後最初の座長の方は 12 時 50 分より待機してください。

■ **進行**

- 「発表時間」に記した時間通りにタイムキーパーがベルを鳴らします。このベルを参考にして、発表が時間通りに行われるようご配慮をお願いします。
- 予めイエローとレッドのカードをお渡しいたします。規定の時間になりましたら、ご提示をお願いいたします。なお、レッドカード提示と同時に、発表・質疑応答を終了してください。
- 各発表の間に設けられた 5 分間は、発表者の交代や機材の接続、聴講者の移動のための時間で、延長のための時間ではありませんので、ご注意ください。
- 進行中に、問題が生じた場合は、各会場担当者へお申し付けください。

交流コーナーについて

■ **抜き刷り配布コーナー**

- 交流コーナーに抜き刷り配布用スペースを設ける予定です。配布を希望される方は、ぜひご持参ください。但し、3 日（日）の 16 時以降に残っているものは、こちらで処分させていただきますのでご注意ください。

■ **「ムカサリ絵馬」展示**

- 交流コーナーにおいて 3 日（日）のみ「ムカサリ絵馬」の展示を行います。ぜひご覧ください。

タイムテーブル

会　場	A 会場	B 会場	C 会場	D 会場	E 会場
	B101 教室	B102 教室	B103 教室	B104 教室	C101 教室
（定員）	176	176	176	176	99
9:30-11:00	A-1 ＊古川実 石戸谷勉 村中健大 長谷川方子	B-1 ＊小田島建己 加藤和徳 野口一雄 志賀祐紀	C-1 ＊川森博司 渡部典子 野口憲一 永吉守	D-1 室井康成 ＊柏木亨介 中里亮平 佐藤喜久一郎	E-1 ＊六車由実 小山修三 西川勝
11:05-11:30	A-4 舟山直治	B-4 佐藤優	C-4 川野和昭	D-4 千葉いずみ	E-4 東資子
11:35-12:00	A-5 クネヒト・ペトロ	B-5 村田典生	C-5 角南聡一郎	D-5 靏理恵子	E-5 韓秀成
12:00-13:00	昼　食				
13:00-13:25	A-6 矢島妙子	B-6 浅川泰宏	C-6 林承緯	D-6 福寛美	E-6 加賀谷真梨
13:30-13:55	A-7 石川俊介	B-7 真野俊和	C-7 下田健太郎	D-7 織田竜也	E-7 山中健太
14:00-14:25	A-8 下本英津子	B-8 関口健	C-8 由谷裕哉	D-8 三柴友太	E-8 岸本昌良
14:30-14:55	A-9 内田みや子	B-9 デール・アンドリューズ	C-9 藤井紘司	D-9 田村真実	E-9 柿本雅美
15:00-15:25	A-10 半田歩	B-10 阿部友紀	C-10 武井基晃	D-10 熊倉史子	E-10 野尻かおる
15:30-15:55	A-11 樽井由紀	B-11 亀﨑敦司	C-11 岩野邦康	D-11 藤森裕治	E-11 宮内貴久

＊グループ発表代表者

会　場	F 会場	G 会場	H 会場	I 会場	J 会場
	C106 教室	C201 教室	C202 教室	C205 教室	C206 教室
（定員）	99	99	99	99	99
9:30-9:55	F-1 倉石美都	G-1 立花弥生	H-1 俵木悟	I-1 大江篤	J-1 坂井美香
10:00-10:25	F-2 宇田川飛鳥	G-2 鈴木洋平	H-2 山村恭子	I-2 藤坂彰子	J-2 陳珏勲
10:30-10:55	F-3 中村和代	G-3 土居浩	H-3 西嶋一泰	I-3 後藤知美	J-3 齋藤貴之
11:05-11:30	F-4 齋藤優美	G-4 岡田真帆	H-4 黛友明	I-4 才津祐美子	J-4 柏井容子
11:35-12:00	F-5 平井芽阿里	G-5 髙木大祐	H-5 鈴木志乃	I-5 葉山茂	J-5 吉井勇也
12:00-13:00	昼　食				
13:00-13:25	F-6 越智郁乃	G-6 田野登	H-6 吉本由梨香	I-6 広川英一郎	J-6 塚原伸治
13:30-13:55	F-7 小熊誠	G-7 市川秀之	H-7 加藤綾香	I-7 本林靖久	J-7 吉村風
14:00-14:25	F-8 大里正樹	G-8 河口綾香	H-8 沼田愛	I-8 渡部鮎美	J-8 大楽和正
14:30-14:55	F-9 増野高司・岸本司	G-9 竹原明理	H-9 中野洋平	I-9 石井克生	J-9 齋藤典子
15:00-15:25	F-10 及川高	G-10 和田健	H-10 藤原喜美子	I-10 逵志保	J-10 安藤有希
15:30-15:55	F-11 佐藤みどり	G-11 丸山泰明	H-11 木原弘恵	I-11 安室知	J-11 池田貴夫

各会場進行表

■ A 会場　B101 教室（定員 176 名）

A-1　9：30 ～ 11：00　グループ発表　青森県の民俗再検討（代表者　古川実）

古川実（青森県）　津軽地方の「兄弟分」再考
石戸谷勉（青森県）　津軽の年占行事　―七日堂祭―
村中健大（青森県）　十和田信仰再考
長谷川方子（青森県）　子安信仰の地域的特質

A-4　11：05 ～ 11：30　舟山直治（北海道）
18 世紀末から 19 世紀中頃における内浦湾沿岸の賽の河原

A-5　11：35 ～ 12：00　クネヒト・ペトロ（愛知県）
口寄せのイタコは誰？

昼　食

A-6　13：00 ～ 13：25　矢島妙子（東京都）
祭りにおける「場所性」の生成　―「うえの夏まつり」と「よさこい」系祭り―

A-7　13：30 ～ 13：55　石川俊介（長野県）
諏訪大社上社の御柱伐採とその関連行事

A-8　14：00 ～ 14：25　下本英津子（愛知県）
神淵神社大祭における協働　―岐阜県加茂郡七宗町における事例から―

A-9　14：30 ～ 14：55　内田みや子（大阪府）
宇治大幣神事と縣祭の祭祀組織

A-10　15：00 ～ 15：25　半田歩（奈良県）
和歌山県紀ノ川流域の九頭神信仰

A-11　15：30 ～ 15：55　樽井由紀（大阪府）
奈良の八王子さん　―ノガミ行事との関わりについて―

■ B 会場　B102 教室（定員 176 名）

B-1　9：30 ～ 11：00　グループ発表　「ムカサリ絵馬」奉納習俗とその周辺
（代表者　小田島建己）

小田島建己（宮城県）　死者を描いた「絵馬」の系譜
加藤和徳（山形県）　曹洞宗と死者の仲立ち
野口一雄（山形県）　「ムカサリ絵馬」とオナカマ
志賀祐紀（山形県）　オナカマと呼ばれた瞽女　―「オナカマ」とは何か―

B-4　11：05 ～ 11：30　佐藤優（埼玉県）
東北地方の青麻神社信仰

B-5　11：35 ～ 12：00　村田典生（大阪府）
流行神の展開過程

昼　食

B-6　13：00 ～ 13：25　浅川泰宏（埼玉県）
巡礼空間の多層性　―四国遍路・室戸岬への道を事例として―

B-7　13：30 ～ 13：55　真野俊和（新潟県）
四国遍路巡拝記の研究　―「役柄」分析の試み―

B-8　14：00 ～ 14：25　関口健（東京都）
最上三十三観音順礼　―札打ち習俗の変遷から見えるもの―

B-9　14：30 ～ 14：55　デール・アンドリューズ（石川県）
絵馬の変容　―アニメ・ゲームの「聖地巡礼」を例に―

B-10　15：00 ～ 15：25　阿部友紀（宮城県）
「ご利益」の霊験から「生き方」の霊験へ　―善寶寺『龍王講だより』から―

B-11　15：30 ～ 15：55　亀﨑敦司（福岡県）
占いから「祈祷」へ　―俗信論との関係から―

■ C 会場　B103 教室（定員 176 名）

C-1　9：30 ～ 11：00　グループ発表　当事者の声と民俗学（代表者　川森博司）

川森博司（兵庫県）　当事者の声と民俗学　―方法論の再検討に向けて―
渡部典子（兵庫県）　伝統行事と女性の声
―法勝寺一式飾りの飾り手調査から―
野口憲一（茨城県）　レンコン農家の民族誌的研究
―就農して二年目の立場から―
永吉守（福岡県）　産業遺産における当事者性
―NPO 運営者の立場から―

C-4　11：05 ～ 11：30　川野和昭（鹿児島県）
南九州の里イモ儀礼とラオス北部のイモ正月

C-5　11：35 ～ 12：00　角南聡一郎（奈良県）
眠りの比較民俗学　―東アジアの寝具に着目して―

昼　食

C-6　13：00 ～ 13：25　林承緯（台湾）
台湾に残存する日本の石仏　―その現状と変容―

C-7　13：30 ～ 13：55　下田健太郎（東京都）
水俣湾埋立地の石像物にみる形態の「ずらし」と設置の際の「位置どり」

C-8　14：00 ～ 14：25　由谷裕哉（石川県）
山村調査と杉浦健一

C-9　14：30 ～ 14：55　藤井紘司（東京都）
坪井洋文再考　―「再生の民俗学」にむけて―

C-10　15：00 ～ 15：25　武井基晃（茨城県）
「民俗○○」の検証　―民俗学者の語彙論―

C-11　15：30 ～ 15：55　岩野邦康（新潟県）
ホモ・フォークロリカス概念と市民社会　―常民論の学史的再検討―

■ D 会場　B104 教室（定員 176 名）

D-1　9：30 ～ 11：00　グループ発表　選挙の民俗学（代表者　柏木亨介）

室井康成（東京都）　なぜ民俗学で「選挙」を考えるのか
—政治風土の理解に向けた一つの試論として—
柏木亨介（東京都）　ムラのなかの派閥
中里亮平（東京都）　選挙もまた祭
—祭礼組織の選挙動員を民俗学的に考察する—
佐藤喜久一郎（群馬県）　実践、選挙の民俗誌
—フォークロリストは神輿にのる—

D-4　11：05 ～ 11：30　千葉いずみ（千葉県）
千葉県鴨川市にみる村内賭博に持ち寄る食べ物について

D-5　11：35 ～ 12：00　靏理恵子（鳥取県）
食をめぐる問題構制

昼　食

D-6　13：00 ～ 13：25　福寛美（千葉県）
『おもろさうし』の神話的イメージ

D-7　13：30 ～ 13：55　織田竜也（長野県）
鬼女紅葉伝説の生成と変容

D-8　14：00 ～ 14：25　三柴友太（東京都）
妖怪伝承にみる身体　—「足」が持つ意味—

D-9　14：30 ～ 14：55　田村真実（茨城県）
キツネの世間話の現代

D-10　15：00 ～ 15：25　熊倉史子（東京都）
昔話の視覚化と社会思想　—「かちかち山」を例に—

D-11　15：30 ～ 15：55　藤森裕治（長野県）
国語教科書の狐　—学校教育における民俗文化論的考察—

■E 会場　C101 教室（定員 99 名）

E-1　9：30 ～ 11：00　グループ発表　介護ブギウギ　―介護民俗学への招待―
（代表者　六車由美）
六車由実（静岡県）　民俗研究者が介護士になったら
小山修三（大阪府）　五感の挑戦から
西川勝（大阪府）　虚構としての認知症ケア

E-4　11：05 ～ 11：30　東資子（滋賀県）
施設で暮らす老人と村落　―沖縄県宮古島市の事例―

E-5　11：35 ～ 12：00　韓秀成（中国）
中国における老人扶養の動向　―「以房養老」―

昼　食

E-6　13：00 ～ 13：25　加賀谷真梨（東京都）
なぜ「家族」に介入しないのか
―家族介護にみられる「人間関係」に着目して―

E-7　13：30 ～ 13：55　山中健太（京都府）
ある保健婦の足跡から見る地域保健活動の展開と住民の受容

E-8　14：00 ～ 14：25　岸本昌良（東京都）
結婚式の現在　―「聟入考」を超えて―

E-9　14：30 ～ 14：55　柿本雅美（奈良県）
「奈良県風俗誌」にみる子どもの名付け

E-10　15：00 ～ 15：25　野尻かおる（東京都）
胞衣納めから胞衣処理へ　―近代胞衣処理の受容装置の考察―

E-11　15：30 ～ 15：55　宮内貴久（東京都）
胎児観の変容　―超音波診断写真―

■ F 会場　C106 教室（定員 99 名）

F-1　9：30 ～ 9：55　倉石美都（東京都）
韓国におけるしつけの方法

F-2　10：00 ～ 10：25　宇田川飛鳥（東京都）
漁業をめぐる地元と国家の論理
―韓国セマングム干拓事業の漁業補償資料分析―

F-3　10：30 ～ 10：55　中村和代（大分県）
韓国地方都市の文化戦略　―重要無形文化財河回別神グッタルノリの商品化―

F-4　11：05 ～ 11：30　齋藤優美（茨城県）
外国人嫁と嫁ぎ先村落の相互関係

F-5　11：35 ～ 12：00　平井芽阿里（愛知県）
愛知県の沖縄系コミュニティについて

昼　食

F-6　13：00 ～ 13：25　越智郁乃（広島県）
墓を介した祖先との繋がり　―現代沖縄における墓の移動を事例として―

F-7　13：30 ～ 13：55　小熊誠（神奈川県）
門中研究の継承と創造

F-8　14：00 ～ 14：25　大里正樹（千葉県）
沖縄の部落郷友会の変化と小集団　―大宜味村大兼久の事例から―

F-9　14：30 ～ 14：55　増野高司（大阪府）・岸本司（沖縄県）
小規模ブタ飼育の衰退に関する一考察　―沖縄県名護市屋部の事例―

F-10　15：00 ～ 15：25　及川高（茨城県）
忍苦と堅信の物語　―ノロのキリスト教改心はいかに語られたか―

F-11　15：30 ～ 15：55　佐藤みどり（茨城県）
アメリカ人宣教師の表現行動の伝統と現代日本における変化の形

■ G 会場　C201 教室（定員 99 名）

G-1　9：30 ～ 9：55　立花弥生（千葉県）
鎌倉・長谷寺出土写経骨にみる霊場への納骨
―中世雄島の納骨との比較により―

G-2　10：00 ～ 10：25　鈴木洋平（埼玉県）
墓地に入る骨壺、捨てられる骨壺　―骨になること、土になること―

G-3　10：30 ～ 10：55　土居浩（埼玉県）
掃苔家から墓マイラーへ　―他家の墓を巡る趣味の変化について―

G-4　11：05 ～ 11：30　岡田真帆（茨城県）
盆行事とハカナギの行動にみる先祖観の形成

G-5　11：35 ～ 12：00　髙木大祐（茨城県）
動物園・水族館の慰霊塔と慰霊行事　―動物とのかかわり方を中心に―

昼　食

G-6　13：00 ～ 13：25　田野登（大阪府）
少子高齢社会における地蔵信仰の変化　―25 年後の再訪による比較分析―

G-7　13：30 ～ 13：55　市川秀之（滋賀県）
明治天皇巡幸と民俗の変化

G-8　14：00 ～ 14：25　河口綾香（福岡県）
猥歌をめぐる葛藤　―祭礼における性的要素と公序良俗について考える―

G-9　14：30 ～ 14：55　竹原明理（大阪府）
人形芸術運動における生人形　―写実的人形をめぐって―

G-10　15：00 ～ 15：25　和田健（千葉県）
農山漁村経済更生計画書に見られる生活改善規約と民俗

G-11　15：30 ～ 15：55　丸山泰明（千葉県）
民俗学におけるミュージアムの可能性

■ H 会場　C202 教室（定員 99 名）

H-1　9：30 ～ 9：55　俵木悟（埼玉県）
文化財としての民俗芸能、昭和 30 ～ 40 年代の再検証

H-2　10：00 ～ 10：25　山村恭子（千葉県）
民俗芸能の継続と復興　―安房地方の鞨鼓舞（三匹獅子舞）を事例として―

H-3　10：30 ～ 10：55　西嶋一泰（京都府）
変化をうけとめる民俗芸能の生存戦略　―大川平荒馬踊りを事例に―

H-4　11：05 ～ 11：30　黛友明（大阪府）
「定着」とは何か　―門前地区の春駒から―

H-5　11：35 ～ 12：00　鈴木志乃（東京都）
山車祭の地域的展開に関する研究　―宮城県の場合―

昼　食

H-6　13：00 ～ 13：25　吉本由梨香（奈良県）
広島県安芸地方の神楽　―特に湯来町の十二神祇について―

H-7　13：30 ～ 13：55　加藤綾香（三重県）
伊賀地方の雨乞儀礼と鞨鼓踊り

H-8　14：00 ～ 14：25　沼田愛（宮城県）
なぜ練習するのか　―「長袋の田植踊」に関する一考察―

H-9　14：30 ～ 14：55　中野洋平（京都府）
先払い役と被差別民　―「差別と民俗」を考える―

H-10　15：00 ～ 15：25　藤原喜美子（兵庫県）
鬼走りと追儺

H-11　15：30 ～ 15：55　木原弘恵（兵庫県）
地域文化の変化とウチーソト関係

■Ⅰ会場　C205 教室（定員 99 名）

I-1　9：30 ～ 9：55　大江篤（兵庫県）
「歴史文化基本構想」と民俗文化　―兵庫県篠山市の事例―

I-2　10：00 ～ 10：25　藤坂彰子（福岡県）
「薄気味悪（うすきみわり）い」話の活用法
―妖怪伝承をめぐる歴史的町並み保存から学校教育、ふるさとまで―

I-3　10：30 ～ 10：55　後藤知美（茨城県）
繋がりと排除のネットワーク
―島根県大田市温泉津町　町並み保存を実現する会の事例から―

I-4　11：05 ～ 11：30　才津祐美子（長崎県）
売られた「合掌造り」のゆくえ　―資源化される民家Ⅱ―

I-5　11：35 ～ 12：00　葉山茂（千葉県）
長崎県小値賀島における生業変容と地域おこし

昼　食

I-6　13：00 ～ 13：25　広川英一郎（東京都）
俗信と農事暦

I-7　13：30 ～ 13：55　本林靖久（滋賀県）
真宗講の諸形態と機能　―山村の民俗の変化と持続をめぐって―

I-8　14：00 ～ 14：25　渡部鮎美（千葉県）
農村における二地域居住の成立過程　―新潟県十日町市を事例に―

I-9　14：30 ～ 14：55　石井克生（福島県）
Ｉターン者の民俗　―限界集落で暮らすということ―

I-10　15：00 ～ 15：25　逵志保（愛知県）
用水における開鑿者祭祀　―枝下用水と西澤真蔵―

I-11　15：30 ～ 15：55　安室知（神奈川県）
水利をめぐる記憶と記録　―溜池の名称変化をめぐって―

■ J 会場　C206 教室（定員 99 名）

J-1　9：30 ～ 9：55　坂井美香（新潟県）
近世香具師と覗きからくり

J-2　10：00 ～ 10：25　陳珏勲（台湾）
鳶職人の今昔　―浅草の鳶を事例として―

J-3　10：30 ～ 10：55　齋藤貴之（北海道）
利尻島の鍛冶屋の変化と生存

J-4　11：05 ～ 11：30　柏井容子（宮城県）
家業の継承と展開　―ある職人の実践―

J-5　11：35 ～ 12：00　吉井勇也（神奈川県）
「ムシ」（虫）を飼う人々のやりとり
―養蚕農家における屋内環境の管理を事例として―

昼　食

J-6　13：00 ～ 13：25　塚原伸治（茨城県）
現金の生々しさと「ふさわしくない」取引　―手形の利用からみる伝統経済の美学―

J-7　13：30 ～ 13：55　吉村風（東京都）
村落の運営と村落金融システム　―滋賀における「切符」を事例として―

J-8　14：00 ～ 14：25　大楽和正（新潟県）
割山という持続可能な資源管理　―その制度化をめぐって―

J-9　14：30 ～ 14：55　齋藤典子（東京都）
20 世紀の伊豆半島にみる海女の仕事とムラの変化
―下田市白浜・須崎、南伊豆町妻良の事例から―

J-10　15：00 ～ 15：25　安藤有希（千葉県）
現代漁村における「生活目的」研究試論

J-11　15：30 ～ 15：55　池田貴夫（北海道）
雑魚の雑魚化の過程　―北海道で嫌われ者になったウグイ―

日本民俗学会第 62 回年会実行委員会

年会会長	篠原　徹				
顧　問	三崎一夫＊				
実行委員長	鈴木岩弓				
実行委員	阿部友紀	安藤直子	李　善姫	板橋春夫	伊藤　優
	岡山卓矢	大村哲夫	小田島建己	小田嶋利江	柏井容子
	片倉綾子	加藤幸治	川島秀一	菊池健策	木村敏明
	栗田英彦	車田　敦	小谷竜介	佐藤敏悦	佐藤雅也
	鈴木文子	鈴木由利子	高倉浩樹	滝澤克彦	沼田　愛
	政岡伸洋	山口　睦	山田仁史	渡邊充洋	

＊本年７月１７日逝去

年会実行委員会事務局

〒980-8576
宮城県仙台市青葉区川内 27-1
東北大学大学院文学研究科宗教学研究室気付
TEL/FAX：022-795-6022（年会当日不通）
TEL： 090-6228-9657（年会当日）
E-mail：fsj62@sal.tohoku.ac.jp
URL：http://www.sal.tohoku.ac.jp/fsj62/